

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

平成 29 年 1 月 17 日

理事長 松山 良一

第17回世界地震工学会議(17WCEE)の仙台開催決定！

～オールジャパン体制での誘致活動により、震災からの復興が進む仙台への誘致に成功～

- チリ サンティアゴで開催された第16回世界地震工学会議の総会において、2020年に開催される第17回世界地震工学会議の(17WCEE)の開催地が仙台に決定しました。
- 総会においては、日本(仙台)、インドネシア(バリ)、ニュージーランド(オークランド)、メキシコ(カンクン)の中から、立候補各国のプレゼンテーションの後投票が行われ、日本(仙台)での開催が決定しました。日本では1960年(東京・京都)、1988年(東京・京都)以来32年ぶり3度目の開催となります。
- 今回開催決定により、第17回世界地震工学会議が、2011年3月に発生した東日本大震災の経験や教訓をもとに、防災や環境への配慮を行政施策に取り入れている「防災環境都市」仙台の取り組みや、日本が得意とする耐震技術、耐震補強技術、免震・制震技術などについての情報発信などにより、世界共通の悲願である地震災害の軽減に向けて、大きく貢献する場となることが期待されます。
- JNTOは、総理大臣レターの発出を含め、観光庁、関係省庁、仙台市、と連携し、MICE誘致アンバサダーの目黒 公郎氏(日本地震工学会会長)及び中埜 良昭氏(日本地震工学会 副会長)による熱心な誘致活動を支援しました。また、在チリ日本大使館の協力を得て、日本地震工学会及び仙台市とともに、ジャパン・ナイトを在チリ日本大使公邸にて開催し、オールジャパン体制での支援を実施いたしました。

MICEアンバサダープログラム※を活用した国際会議としては11件目です。

※MICE アンバサダープログラムとは…

JNTO では、国際会議の日本誘致を推進するため、学術分野や産業界において、国内外に対する強い発信力やネットワークを持ち、「日本の顔」として広報活動や誘致活動に寄与いただける有識者の方々を MICE アンバサダーとして任命、その活動に対し必要な支援を行う「MICE アンバサダープログラム」を展開。

本件に関するお問い合わせ先

コンベンション誘致部(塩田) TEL:03-3216-2905



<会議詳細>

会議名	和文): 第 17 回世界地震工学会議 英文): 17th World Conference on Earthquake Engineering (略称: 17WCEE)		
概要	<ul style="list-style-type: none"> 世界の将来の地震被害を軽減し、地震災害に強い社会を実現するための科学的な知見の深化、技術や社会制度、教育やトレーニングシステムの開発など、ハードとソフトの両面からの地震防災対策に関する研究の推進を目指す国際地震工学会 (IAEE: 加盟国 58 か国) が 4 年に 1 度開催する国際会議。1956 年に第一回を開催し、2020 年は第 17 回目。 工学を中心とするが、自然科学と社会科学の横断的な研究 (建築学、土木工学、地盤工学、機械工学、地震学、情報学、心理学、教育学、法律学、医学、社会学等) とその成果を実装するための研究をテーマとしている。地震工学分野では、当該分野の研究者や実務者、行政職員などが参加する世界最大規模の国際会議。 		
主催団体	公益社団法人 日本地震工学会		
開催都市	仙台市	予定開催期間	2020 年 9 月 14~18 日
参加予定人数	3,000 名 (海外: 1,500 名 国内: 1500 名)	予定参加国数	約 80 カ国・地域※
誘致活動	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁、仙台市との連携のもと、内閣総理大臣、内閣府特命担当大臣 (防災)、文部科学大臣、復興長官、国土交通大臣、観光庁長官、仙台市長、JNTO 理事長名の招請状を发出。 在チリ日本大使館の協力を得て、最終プレゼンテーション前日に日本地震工学会及び JNTO、仙台市によるジャパン・ナイトを在チリ日本大使公邸にて開催し、オールジャパン体制での支援を実施。ジャパン・ナイトでは、参加者に対し、和食や茶道、和太鼓など日本文化を堪能する機会を設け、開催地としての日本と仙台市の魅力を PR した。 		

※国際地震工学会 (IAEE) 加盟国 58 カ国を含む



「チリ地震工学会」の会長 (左) から、会議のシンボルの木像を受け取る日本地震工学会の目黒公郎会長 (右) (チリ・サンティアゴ)。